



門 武
編 462
卷

序曰



抑ソモ上ジヤウ古コ者ハ鍼シ灸クヲク官ワカサトリ
 療リヤウ車スルコト專モツハラ永エイ續ヅク尚ナホ又マタ其ソノ後ノチ
 中チウ天テン竺シク二メ名メイ醫イ有アリテシ死シ活ク之ノ
 陽ヨウ灸クヲハ考カンガ出イダシ万マン人ニンノビヤウ病ク苦ク
 救スクウ車コト夥オビタ鋪レク而シテ其ソノ後ノチ口ク傳デンニ



曰^{イタク}打捨^{ウチステレ}トヤ云^{イハレ}併^{シカシ}療^{リヤウ}ズル官^{ツカサ}
成^{ナレ}バ今^{イマ}之^ノ世^ヨニ至^{イタル}迫^{マデ}言^{イヒ}傳^{ツタヘ}有^{アリ}
ナレ^モトモム^{ビヤウ}ハ^{シヤウ}ジキ^シ心^{シレ}ノ
ナレ^{ツカサ}衣^{コウ}魚^{トウ}病^ウ者^ハ正^{シヤウ}直^{ジキ}信^シ心^{シレ}ノ
官^{ツカサ}ニテ^{コウ}道^{トウ}ヲ^ヨ世^ノ之^{コハ}越^シ路^ニモ
成^{ナレ}ガ^{ホシ}レ^シト^{ホシ}本^{シヨ}書^{イウ}ニ^モ曰^{モロク}亦^{シヨ}諸^{シヨ}書^{シヨ}
ニ^ミモ^ミ見^ミタリ^{スナハチ}即^{スナハチ}忠^{チウ}孝^{コウ}共^キ各^{オノ}其^{ソノ}

職^{シヨク}ヲ^{ハケマン}励^ツニ^ハ常^ツニ^ハ陽^{ヨウ}灸^{クハ}ヲ^{モチ}用^ヒ
ズ^カン^ナバ^{ベカラズ}不^カ可^ラ叶^ダ體^カ中^ダニ^フ不^{ソク}足^ク發^{コリ}テ
ヨ^ニリ^ニ俄^ニ灸^ヨ鍼^ハ藥^{クスリ}ヨ^ト騷^{サワギ}立^{タチ}
テ^ソハ^コ其^ウ療^ス功^ニ薄^{サレ}遲^{オホ}太^ホト^タ多^ハ
衆^{シウ}人^{ジン}陽^キ灸^ウヨ^リハ^ノ飲^ク食^シニ^ミ而^シ已^ミ
曲^{クセ}ノ^ツ附^キ安^{ヤスキ}者^{モノ}成^{ナレ}ド^{マツ}先^チハ^{コウ}忠^ウ孝^ト共^ニ

我ノ體ヲノレニが本手モトデ成ナレバ平日フダンニ點テンジ
置オキメキ者モノナリ也何シモ四海シカイミナム皆ビヤウ無病
長テウ壽ジュシテ愛メデ度タク子シ々ク孫ソン々ク迄マデ
泰タイ平ヘイ天テン念ニ之ノ齡ヨハヒヲ唯タク々ク願カガフニ
ナシ

養生訓

○ 丈人そんじんの天地てんち乃なほ全氣ぜんき稟りやうく生せいむる
と以もつ則すなは小天地せうてんち乃なほ多おほくくとくる依よて陰いん女にょ
陽やう男なん理物りぶつとと悉しつ皆みな具足ぐそくとと人
乃なほ去いる處ところよりよりて然しかままどども天
地ち小雲せううん霧き勢せう風雨ふうう變へんりり況きやうや人倫じん小

妙しくつゝの凝幹物なれ病煩乃
障尤有癒一併天地を尽る期はし
人の命終定りて尽る期あり
故小病症を消除するまで平生養
生し有事にして壽齡もすく延る
期をゆるべ一譬の深山に住者ハ山
小入木以樵柴薪と芥取遠鄙田舎

○
小住ハ朝暮田畑を耕し其業不怠
身と勤廉食と給る故に自然の養
生と成る定命の外小壽を保り
者もあり
市中繁花小住居する者ハ日々肉
食と山海乃美食をひひ食ふ
其自由過當めて此を不

相應乃榮耀そつうおつ持崩もちぶさ或家業あるか
其職其高例利潤の理外そのあつ小利欲りどあん
と得んと各心氣あひ以苦き朝夕高あけくれ
謀の意無止時まが需すて已おのれと心意しんいと
痛いため其為その存外そんぐわい此病苦びやく以發はつ
一い定命ぢやうめいととも又縮免果ちぢみる人ひとも有あ
一い又父母おやが一い字疾毒多あざるあれあ
一い又父母おやが一い字疾毒多あざるあれあ

其子父母小准おん又譬胎内たとへ内ないり
止とどる時々不時季ふじき小せうりり子せん愛べん
万化乃病ばんくわとある是父母おやがの同寢どうしん
不時季ふじきと禁い支子し々孫そん々々ままめ
清きよき万物の長ながたたりりととあり
○當時たうじ一生無病いっせうむびやう賢固けんこ小せうりり命終めいしゆう
すする人ひと稀まれなり病びやうを各平あひ日ひ養やしやう

生乃不行届より煩ひ或需るに
等



病氣く同症の者何れも其人各

平日れ氣傾有るものもく一同り

ありたり又同病あり少くも風土

是時候ふより少くの違ひも有

べ病乃盛んぬる時を薬力を

以一時たちまらふ治とつる難

く故り病者心氣以尽して醫

術乃誹謗を歎々鋪車也然処

予幼年にして多病ありし二

十歳の頃病乃床ふ卧とて父母

種々醫療と盡し呉るを以

ども更ふ薬功れく煩ひ卧事

凡六ヶ年に於て既に命終る所
相待りし幸六ヶ年於春
乃末り至り尤從弟醫書古
實の本と求吳来り併予病
苦難決り余り自療も種々
致居是幸と此書小心と尽
死活官門乃灸穴功能有明

成りて始知まかり予灸せん
と一心り思父母小兒長病の勞れ
不羨引あまて天命に申のせ
傳書の通里其日より毎絶間
灸療す多かり兩三日苦む
烈く故小父母深く止むといへ
ぞも押く灸療する事七日

余里好然氣分心
始快汝抄心ゆる猶不怠療
と保ふ三十余日わく氣力
調ひ病氣追々全快して一命
と保ふと全く死活官門乃余
光と深く信用して日々時々
灸養せよ其年乃中秋小

至く大丈夫とある依くいふ
灸道ふ心以盡猶修行丹精
せし所本死活れ有功とあり
相寛其全愈以相歡諸國巡
寄し諸人へ點灸を施し病
苦を助る事數多なり依く
先年々々里當

御府内へ罷出猶々灸點と進

諸御方并市中病煩乃家々

より懇望小任せ灸療進候

処平愈乃人は是又數多あり全

灸療信ずるに予が幸福なるふ

庵

若年の男子女子法外乃不行

跡を以て皆氣乃滯里にそ

病あり譬言へ老若とも病の爲

是小准又譬言字癩病癩癩

眼病瘡毒肝症中風痔漏脱肛

熱病痢病痛風乱心大人小兒産

付離支とて皆万病一毒小

く氣乃滯里是と以病と凡且父
母り胎毒ありて精液卵巢小
止りて子胤ある其子出産
て或ひは胎毒もく瘡發
腦もく虫氣なるの煩ひある凡
その基皆父母乃り凡濁精と
受へ故小此性とある故り常々

毎怠灸治ひを置候て出生も
安體あり譬へ玉不磨無光身も
濁精以不磨毎光猶孝道ハ清
躰なり不孝を病躰ふく身
以守里家と守り國以守り得
事と志く清躰ハ身を守
里家を守り國と穩め孝道以

官つらみどりり凝滞きやうたいあり穩しんまと主しゆと
自然ぜんぜんと正直しんじきに
あや疑うたがひゆ
長壽ちやうじゆと

哥うた小

ふ孝かうある道みちの末すえより母ははを如ごとくん

孝かう乃すなはち及およぶ

○平日へいじつ老らう若じやく男なん女にょ小兒せうじくく至いたるまで

死し活くわ陽やう灸しゆ怠たいごご時ときも是これ迄まで乃
體たい中ちゆうふ有あ之の濁じやく氣きを散さんト陽やう
灸しゆと以もつ一いつ瞬しゆん清せい涼りやうと志しむ故ゆゑと
氣き血けつ水すい乃すなはち經けい絡らく順じゆん還かへして悉しつく
清きよく心しん氣き少せうと凝滞きやうたいとるも
又また胎たい内ないの子こ其その清せい氣きと受うけ
得えく出い生せうとる由よしへ聊いさ煩らんの質しつ

○
かく是則万病一灸乃功あり
一胎同腹より出生の子もあつて
兄弟姉妹と分るる者あり
子等成長後強弱智患正
不實孝不孝とある者あり
是全く其子等乃性質不
思ふ如く父母歎息

一切其基は皆父母
清濁乃體より受て常の行
あひ正不正よりその子同氣と
需て出生し譬も不實不孝
は皆病躰なり又あるは親子
夫婦も親類他人も至るまで
自此より廉々たかく不中

主と一其外口傳よの皆病
好利

哥り

海難と世ふかたはつる

且死活乃陽灸万病と磨車
疑ひ好しといへども世の病り

より手後と療治不届極老衰
療すより不及譬言の木乃朽
ふふ似たり又諸木といへども
病の氣以持自然枯氣を持
猶又清木と好し亦小犬猫乃病
も陽灸めく治と皆陰陽の性

あつくたへる小天地乃如あり又
譬晴天乃日中よ水空氣あり
有とつとつと眼ふ見へばその道
具ふてと空水を取とつとを
精液も目ふみえは然共取道
して取事少れり皆万物水火の
為に生さるる者あり

○ 大家或も市中の富家れまのふ
かまへば子胤なまも數多あり又
適有と雖早世若年ふと空
しく成者あり實男子有とい
へど他へ出し他乃子代相續ふ
致し不順なる事常々此持
不仕階落とく酒色をとと

魚鳥の肉は強喰一死活乃陽
灸も致さば不養生一子亦
き代愁ふ豈濁毒れ氣と含むて
しを知らば精液を補えんと種々
乃好食精薬腹用とるやとて體
中の其基と能磨明ふを以て志くハ
悲哉所陰有無のくハ

酒食魚鳥獸肉其外乃物々一能
一毒あるとくハ然まじも一さハ
人ハ食なすばあはく依く其
程々ハ能食とる時々一體乃養
少ゆる然ふよ過當の強食とる
故ハ還く其身ハ害毒とぬふ
爲しやとくハ數万乃賤宝と積

やうにても一命乃外重宝なる
もの有るを依て大切乃一
命常に厭るを艱く難し
○體中氣血水の三道を流る
水乃如し若淀むれば塵埃自
然に經道ふ止り其為小順道と
妨礙凝體を成る氣乃滯り

よも里疾毒と成る發せし爲る
譬て曰古き障子と雖日々時
々刻々ふしし明立敏系と故
に滯り障りある頃たのあよ
むに蟲乃しむ愁ひ多し
腹内も又穏和なる時と無病
ふして凝氣のうまひあり爰ふ

抄し父母清健養生灸治
不怠と死を精氣もきつて
調補とるなり又閨交して子
胤なり臨月ふれよびて出生
其子亦清涼あり生長の後其
性正しとあれ必其親乃教諭
成守里とて孝行ふ何れを

主君小仕ゆる時とあは
忠烈も有べき事なり先子を
と先祖に對し不孝とあり
或は又主有るもの其君乃恩と
報とるの世継かると自然の不
忠あるべし併養ひ子成りて
繼續すなり有とて血統ふ

志がば

○前条病發も治す所の薬功

之有かん併万病起らざれば死

活乃陽灸よ志の心と覺由

○序小曰三州吉田侯乃御領知百姓

万平親子孫曾孫の一統無病

長壽あり薬用乃分る

壹人多あり一生妙なりと常に

神方艾灸乃外他事あり不

怠點清健ありといふ是ハ

世上乃人能志まするまらねど灸

能大功德あり代信用して爰小

何れも人者也

○予死活乃陽灸する所ハ男女

小兒ちやくうりり如ごとくく其その人ひと志しんんののり
れれ久く陽やう灸しゆ進しんトト體たい内ないののをを乃の
根こん元げん以い強きやう補ほ一一不ふ通つう不ふ足そく以い氣き
血くわ水すいをを順しゆんああくく心しん氣きとと養やうひひ
精しやう氣きをを清きよくくもも其その功こうああままばば
自じ然ぜんとと無む病びやう小せうくく心しんくくももらら
らら事じ好こうくく一い體たい全ぜんくくててああふふ

ほほのの大たい勤きん行ぎやうどどもももも勞らうせせとと
是し心しん氣き凝ぎやう念ねんななくく抄しやうししをを
自じ由ゆう好こうくく是し性せう分ぶんああくくをを強きやう
ああ故こななをを亦また今いま日にち天てん道だう乃の冥めい
利りああままののああくくをを思しふふ
○右みぎ書しよ小せう曰いふ童どう朦もう女にょ子し乃の為ためああくく
得とくややくく死し活かつ陽やう名な灸しゆれれ功こう驗げん

何れも一々猶諸人より志らしめ
病苦より煩考る人其補助せん
と專要とん志のれもそと己か
名代うあふ何れ又職業より
慢ず何れもあそと唯人れめく
一體乃為よも方是如一冊
記採里ぬうそと人れ嘲り

毛何れんさねども病を見く衆
人乃笑ひ何れそと俗々早
文ねく神方陽灸れ能莫
太方何れを信用己があそ海
拙き代も何れと述るもの也

哥

福を徳福の義より何れ壽を

行りあつてくはる哉

冬暮の暮

湯水乃乃乃冬暮

抄々如々々々々々々々

湯き月々々々々々々々



江戸日本橋檜物町

町醫師

安政四巳年仲冬

上兼養明

藏板



四谷區

井上 山郎 氏



日本書局出版

11

田舎

上
西
大
郎

明
中
物
之
書
海

六十七